

第4回 稲沢市部活動地域移行検討委員会（議事録）

令和6年7月18日（木）10時より
稲沢市勤労福祉会館 第4会議室

- 1 辞令・委嘱状の交付
- 2 はじめの言葉
- 3 自己紹介
- 4 稲沢市部活動地域移行検討委員会設置要綱について
- 5 あいさつ（委員長）
- 6 報告事項
 - ・ 学校教育課より
事務局：昨年度3回の検討委員会の内容と、現在の中学校の部活動の状況について説明。
 - ・ スポーツ課より
事務局：スポーツ少年団、スポーツ協会の状況について説明。
- 7 協議事項
 - (1) 稲沢市が目指す部活動地域移行の姿について
事務局：地域移行に向けての今後の取り組みについて説明。
委員：中小体の大会参加の仕組みがよく理解できないので現状で意見を述べるのは難しい。
委員長：地域移行部活動として認められることで、学校単位での参加ができなくなることや、地域クラブ活動の大会参加について説明。
事務局：現段階では学校単位での大会参加が現実的だと考えるがその点についての意見を聞きたい。練習試合ができない等の課題がある。
委員長：練習試合はできなくてもよいのではないか。長期休業中にならやることはできる。休日に活動するメンバーの中で試合もできるのではないか。
委員：外部のクラブチームに入っていると、学校からは大会に参加できず、同じ種目をやってもユニフォームがないので、卒業アルバムにクラブチーム所属の子は体操服で写ることになり、寂しさを感じた。
委員：吹奏楽は休日に校舎内に入れないとできない。また、学校以外の施設を使うにしても楽器の搬送が難しい。そのことについてはどう考えているのか。
事務局：吹奏楽の拠点は現段階では学校でと考えているが、その学校への出入りをどうするか、拠点への楽器の搬入をどうするかは、今後検討していかなくてはいけない大きな課題だと捉えている。知恵を出し合って解決できるようにしていきたい。
委員：学校の部活動とクラブチームとの二重登録ができないのはなぜか。なぜ1人の生徒が複数の種目をできないのか。
教員の働き方改革ということから他の地域では完全に部活動を学校から切り離しているところもある。平日は学校で休日は地域でというのはシステムが複雑で保護者が理解できないのではないか。
事務局：競技連盟のルールとして野球とサッカーに関しては、二重登録ができないことになっているが、他の種目に関してはそういったルールはないと認識している。
理想をいえば、学校から全て切り離して地域でとしたいところだが、稲沢市では十分な受け皿がつかれない。完全に切り離している地域は、地域のスポーツクラブ等が充実していて、受け皿が豊富だから切り離しができるが、稲沢市で学校から完全に切り離すと、生徒の活動の場が失われてしまうため、今回の案を提案している。
委員：いずれは平日もなくしていくという考えはあるのか。
事務局：まずは休日の活動を移行していく中で、今回提案している2つの選択肢のうちの地域の受け皿が今後充実していくのであれば、平日も移行していけると考えるが、現状ではそれは難しいと考える。
委員：平日の部活動と休日の活動は別のものとするのか。

- 事務局：休日の活動はあくまでもスキルアップや競技を楽しむことを目的に希望する生徒だけが参加するものなので平日の学校の部活動とは別のものと考えてる。
- 委員：平日の部活動と休日の活動の違いが分かりにくいのは、休日の活動に別の名称をつけることでより分かりやすくなると思う。
大会参加については、学校単位でも、休日の活動単位でもどちらでも出られるようにすればよい。休日の活動をクラブチーム化することでそれは可能であると思う。どちらで参加するかは生徒が選択できるようにすればよい。
- 事務局：休日の活動を地域移行部活動ではなく、クラブチームとして認めるのであれば、学校とクラブチームのどちらからも大会参加は可能となるが、まだ一部種目においてクラブチームの大会参加が認められていないので今後の動向次第にはなる。
- 委員長：大会参加をどうしていくかより、生徒の活動をどうするかをメインに検討した方がよいのではないか。
- 委員：子どもたちは大会を目標に練習しているので、大会参加については重要だと思う。スポーツ少年団は今は小学生がメインになっているが、スポーツ少年団の中等部をつくっていくことはできないか。
- 委員：AかBを選択するとあってAを選択すると無料とあるが、学校の体育館等を使うのに会場使用料は無料なのか。一般の活動団体は使用料を払っているのに無料にするのか。一般団体から苦情がくると思うので、再検討していただきたい。
- 委員：休日の練習がないと、部員数が少ないところはゲーム形式の練習ができない。ゲームの中でしか学べないことも多くあるので、練習試合をどうするかというのは、大きな課題でこの案のままでいけば、生徒も教員も戸惑うと思う。
- 委員：今回の提案は2つから選択するということで方向性ははっきりしているが今後新たなチームが作られたときに、そのチームに対して何も支援がなく全てボランティアの活動となると運営が苦しくなると思う。そうしたチームへの支援策も検討してほしい。
- 委員：先生方が疲弊しているので、日頃の教育活動の質を上げていくために部活動を地域に移行していくという視点で今後検討を重ねていければよいと思う。
- 委員：ブロックの分け方は各地区のニーズに合わせて検討していくことが大事である。ブロック分けをしていく上で、コーディネーターは必ず配置すべきだと思う。
- 事務局：実現に向けての役割分担について説明
- 委員：指導者の募集でスポーツ少年団にも声をかけてもらおうと、現在、スポーツ少年団の指導者は無償でやっているの、部活動指導員になると報酬がもらえるとなるとそのことが問題になってくる。
指導者の教育についても重点的に行ってほしい。指導者による問題がいろいろなところで起こっている。どうやって指導者の教育をするかを課題としてほしい。
- 委員長：部活動指導員にどこまで責任をもたせていくのか、けがやトラブルの対応をどこまでするのかも課題となる。活動日時を土曜日に限定することも本当にできるのかも大きな課題となる。
- 委員：兼職兼業の教員というのは部活動指導員になって1時間1600円の報酬をもらえるということか。
- 事務局：兼職兼業の教員には部活動指導員になってもらうので報酬が出る。
- 事務局：今後のスケジュールについて説明。
- 委員：モデル事業は今年度からやるという話もあったが予算的に難しく、来年度へ先送りになったのはどうしてか。
- 事務局：モデル事業の形が十分に固まっていなかったため、先送りになった。